

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K18444

研究課題名（和文）貨幣再考：学際的アプローチ

研究課題名（英文）Revisiting Money: An Interdisciplinary Approach

研究代表者

鎮目 雅人（Shizume, Masato）

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：80432558

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトでは、貨幣史、金融史、貨幣理論、現代金融論、文化人類学、社会思想など、異なるアプローチから第一線で貨幣研究を行っている複数の研究者が一堂に会し、学際的かつ統一的な視点から貨幣のあり方を再考した。その結果、価値体系として貨幣をみていくことの重要性について見解の一致をみるとともに、多様なアプローチから学際的な研究を行うことで多くの知見を得た。その成果は、関連学会のパネルセッションやワークショップ等における共同報告、各人による学会や研究会等での発表、論文、図書等のかたちで公表したほか、研究分野を超えた対話の中から新たな視座を得ようとする「協働」の成果として学術書の出版を準備中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、学際的な観点から貨幣の機能と本質について再考し、社会内部での貨幣の機能ならびに貨幣の本質に関する理解についての新たな知見を得た。現代の貨幣制度が普及、浸透していく過程で何が生じていたかを、固有の起源と伝統を有する非欧米社会の視点から探るというアプローチの有効性を確認するとともに、その具体的方法論を提示できたと考えている。本研究の成果を社会的に共有することにより、より広い視野から社会内部での貨幣の機能についての理解を格段に深化させ、貨幣の本質に関する新たな基礎概念の構築やこれまで焦点が当たらなかった新たな視点の発掘につながり、各分野の今後の研究の基盤構築に貢献するものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this project, we revisit the nature of money from an interdisciplinary and unified perspective. To this end, we collaborated as front-line researchers on money from different approaches, including monetary history, financial history, contemporary monetary theory, anthropology, and social thought. We reached a consensus on the importance of viewing money as a value system and gained insights through an interdisciplinary approach from multiple dimensions. The results were made public through panel sessions and workshops at related academic conferences, as well as presentations at various conferences and seminars. We also published academic books and articles and are preparing a collective volume. These joint studies aim to gain new perspectives through collaboration and dialogue across research fields among researchers who have accumulated a wealth of research experience.

研究分野：貨幣史、金融史

キーワード：貨幣の起源 価値体系 先住民社会 地域通貨 社会思想 貨幣史 金融史

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

20 世紀末以降、貨幣の機能に大きな構造変化が生じている。日本をはじめとする先進諸国では、非伝統的な金融政策運営が実施される中で、これまで民間金融機関が担ってきた金融仲介・リスク管理機能の一部を中央銀行が事実上代位するといった状況が生まれ、中央銀行と民間銀行の関係に変化がみられた。また、ここ数年デジタル通貨と既存の現預金通貨の共存が現実味を帯びるなど、近現代社会において貨幣供給の中核を担ってきた専門銀行の機能が問い直されている。

貨幣に関する研究は長い歴史を有するが、より広い視野から貨幣の機能と社会的意義を再検討することの意義は一段と大きくなっていると考えられる。研究代表者は、これまでの研究を通じ、近代貨幣システムへの移行プロセスを経済史的観点から検討する中で、貨幣を「価値を表現し、社会的に共有する仕組み」として捉えることを提唱するとともに、異なる時代、異なる地域において、貨幣流通を実現する仕組みとその担い手は多様であったことを示した。その過程で、経済的視点「のみ」から貨幣を把握することの限界を実感するとともに、貨幣の社会的機能の土台となる人々の認識を形成する上での社会思想的展開の重要性を再認識するに至った。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、学際的な観点から貨幣の機能と本質について再考し、社会内部での貨幣の機能ならびに貨幣の本質に関する新たな理解を獲得することにある。具体的には、関連分野の成果を吸収するため、これまで必ずしも相互に参照されてこなかった経済学・経済史、文化人類学・社会学、哲学・社会思想の研究を、視点や方法論の違いに着目しつつ整理し、歴史的な事例および現代における貨幣の展開を具体的な題材として採り上げ、異なるアプローチからの解釈の共通点ならびに相違点を検証することとした。

### 3. 研究の方法

#### 学際的な観点からの貨幣研究のサーベイならびに実地調査

COVID-19 の感染拡大を受けて対面での研究会や実地調査の実施が大きな制約を受けた 2020 年度～2021 年度においては、オンラインでの研究会を精力的に開催し、経済学・経済史、文化人類学・社会学、哲学・社会思想の貨幣に関するサーベイを行った。その際、自身のこれまでの研究成果のほか、各分野の既存研究を幅広くカバーすることで、貨幣の機能と本質に関する学際的な議論の土台をつくることとした。また、貨幣理論ならびに現代金融論からみて他分野の研究成果がどのように解釈され得るかという観点からの検討を行った。

COVID-19 の感染がピークアウトするのを待ち、国内および海外の実地調査を実施した。調査地としては、商人の手で現存する日本最古の紙幣(山田羽書)が発行され江戸時代を通して紙幣が継続的に流通した三重県伊勢市、デジタル地域通貨(さるぼぼコイン)の成功例として知られる岐阜県高山市、江戸時代に幕府の金銀山が置かれた佐渡地域、貝殻貨幣と法貨が併用されているパプアニューギニアの東ニューブリテン州での実地調査を行うとともに、これらに事例から貨幣のあり方にどのような知見が得られるかについて、学際的な観点から議論を重ねた。

#### 貨幣に関する学際的な観点からの検討

研究会における報告と討議を通じて、理論的、実証的、思想的観点からの異なるアプローチをもとに、歴史上および現代における貨幣の機能と社会的意義がどのように解釈され得るかについての検討を行った。その結果、現代の貨幣制度が普及、浸透していく過程で何が生じていたかを、固有の起源と伝統を有する非欧米社会の視点から探るというアプローチが有効であることについて、意見の一致をみた。また、研究に際しては、それぞれの社会が元来持っていた貨幣制度はどのようなものであったのか、社会が欧米発祥の諸制度と出会ったときに貨幣の使用に関して何が起きたのか、欧米勢力の進出に対して社会がどのように反応したのか、その中で在来の貨幣制度の何が変容し、何が温存されたのか、また異質な貨幣制度同士がどのように関係したのか、といった論点を念頭におくことが有用であることが改めて確認された。

### 4. 研究成果

#### 研究期間中の成果

挑戦的研究(萌芽)である本プロジェクトでは、確定的な結論を得るというよりは、既存研究では必ずしも深められていない論点の発掘と、それを研究するうえでの方法論の提示を目指して研究を進めた。その結果、価値体系として貨幣をみていくことの重要性について見解の一致をみるとともに、貨幣史、金融史、貨幣理論、現代金融論、文化人類学、社会思想など、多様なアプローチから学際的な研究を行うことの有用性を確認し、こうした多様なアプローチを融合させることにより多くの知見を得た。本プロジェクトの成果は、関連学会のパネルセッションやワークショップ等における共同報告、学会、研究会等での発表等のほか、論文、図書等のかたちで

公表した。その成果は、以下の(1)から(5)の論点に集約される。

- (1)貨幣とは、単に「経済的価値を数値化する」だけのものではないのではないかと、
- (2)ある社会において、ある貨幣が「表現し、共有している」価値の体系は、それぞれの社会の文脈(context)に依存しているのではないかと、
- (3)ある社会において「表現され、共有される」価値の体系はひとつとは限らないのではないかと、
- (4)社会の変容につれて、使用される貨幣や貨幣が「表現し、共有する」価値の内容は変化しているのではないかと、
- (5)ある貨幣を使用することで、その社会が持つ価値の体系やその社会の独自性を維持することができるかもしれない(ある貨幣の使用を止めることで、その社会が持っていた価値の体系やその社会の独自性が失われてしまうかもしれない)のではないかと。

本プロジェクトは、豊富な研究蓄積を持つ研究者間の研究分野を超えた対話の中から新たな視座を得ようとする「協働」の試みであるとの認識の下、参加メンバーがこれまで蓄積した国内外の共同研究ネットワークを活用し、貨幣に関連する幅広い分野の研究者を交えた研究集会を開催し、論点の共有・可視化を図った。具体的には、国内外の関連学会(World Economic History Congress (WEHC) 2022、日本金融学会 2021 年度秋季大会ならびに 2022 年度春季大会ほか)でのパネルセッション等の主催、ならびに学会・研究会等での報告を通じて研究成果を公表するとともに、国内外の幅広い分野の研究者と意見交換を行った。これらの成果をもとに、2024 年 3 月には、国内外の有識者を招いて国際ワークショップを開催したほか、英語、日本語による学術論文や図書の執筆等を通じ、貨幣の包括的理解に向けた議論の深化と研究成果の社会的還元を実施した。なお、本プロジェクトが主催したパネルセッションならびにワークショップは以下のとおりである。

- ・神戸大学経済経営研究所ウェビナー「藩札から銀行へ～渋沢栄一と明治の金融革命(2021 年)」
- ・日本金融学会秋季全国大会「金融史パネル 商人から銀行へ 大阪の豪商・廣岡家と日本金融市場」(2021 年)
- ・日本金融学会春季全国大会「特別セッション 歴史にみる貨幣の多様性:近代との接点から」(2022 年)
- ・Crises, money doctors and reforms: New technology, old issues? World Economic History Congress (2022)
- ・WINPEC Workshop on Money as a Value System (2024)

#### 研究成果の出版

現在、2024 年度中の刊行を目指し、本プロジェクトの成果をまとめた図書『貨幣再考:学際的アプローチ』(仮題)の出版に向けた準備を進めている。本書では、で提示された(1)から(5)の論点に沿って、研究代表者、研究分担者、研究協力者がそれぞれのアプローチから論点提起と今後の研究上の方法論の提示を行うこととしている。以下では、現時点で想定される各章のテーマ(仮題)とその概要について記す。

1. 「現代日本の貨幣から」(神戸大学・柴本昌彦)では、現代日本社会における貨幣を取り巻く環境を念頭に、現代における貨幣が本研究課題とどのような関係を持つのかという点を中心に、問題提起を行う。これに続いて、
  2. 「パプアニューギニアの貨幣から」(三重大学・深田淳太郎)
  3. 「近世日本の「計数銀貨」を見つめ直す」(神戸大学・高槻泰郎)
  4. 「計算単位の変更と資産評価 明治維新期の銀目廃止など」(東京都立大学・小林延人)
- では、固有の起源と伝統を有する非欧米社会が欧米起源の貨幣制度と接触した具体的なケースを念頭に、それぞれの社会が元来持っていた貨幣制度はどのようなものであったのか、社会が欧米発祥の諸制度と出会ったときに貨幣の使用に関して何が起きたのか、欧米勢力の進出に対して社会がどのように反応したのか、その中で在来の貨幣制度の何が変容し、何が温存されたのか、また異質な貨幣制度同士がどのように関係したのか、といった論点について検討を行う。
5. 「貨幣の国家理論の考察; 国家権力と統治実務の距離をめぐって」(東京外国語大学・中山智香子氏)は、クナップ(1905)『貨幣の国家理論』を当時の歴史的かつグローバルな文脈に位置づけてその意義を再考する。ここまでの議論を踏まえ、
  6. 「現代的貨幣モデル」(神戸大学・清水崇)では、サーチ理論に基づく現代の経済学における貨幣のモデルの設定と主な含意を紹介し、将来の研究課題を考えるうえで歴史的な事例に関する研究との対話の必要性について論じる。また、
  7. 「貨幣論の系譜」(早稲田大学・鎮目雅人)では、「ある社会において、価値を表現し、共有する仕組み」としての貨幣という観点から、アリストテレス、ヒューム、スミス、マルクス、クナップ、ジンメル、ケインズ、ポラニーなどの貨幣論を再考したうえで、現在における貨幣論の展開を踏まえた今後の研究課題についての論点提起を行う。

本プロジェクトは、何らかの確定的な結論を得ることを目標とするものではない。本プロジェクトを通じて検討され、あるいは論点提起された研究課題について、今後も研究を継続することが重要であると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 鎮目雅人	4. 巻 40
2. 論文標題 日本の近現代史からみた信用貨幣	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 信用理論研究	6. 最初と最後の頁 95-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎮目雅人	4. 巻 4
2. 論文標題 幕末維新时期日本の貨幣制度と貨幣使用の変遷：デジタル通貨時代における複数通貨の併存と統合を見据えて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 SBI金融経済研究所 所報	6. 最初と最後の頁 54-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 深田淳太郎	4. 巻 4
2. 論文標題 おかねの文化人類学：常識を再考するヒント	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 月刊金融ジャーナル	6. 最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuo Takatsuki and Taro Hisamatsu	4. 巻 30-3
2. 論文標題 The role of information in the Rice Exchange: YAMAGATA Banto's Great Knowledge (1806)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The European Journal of the History of Economic Thought	6. 最初と最後の頁 395-409
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高槻泰郎	4. 巻 262
2. 論文標題 (書評) 岩橋勝著『近世貨幣と経済発展』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 66-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Kobayashi	4. 巻 1
2. 論文標題 Political Economy of Textiles in the Atlantic Slave Trade	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of African History	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/acrefore/9780190277734.013.1446	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masahiko Shibamoto, Wataru Takahashi and Takashi Kamihigashi	4. 巻 6-2
2. 論文標題 Japan's Monetary Policy: A Literature Review and Empirical Assessment	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Computational Social Science	6. 最初と最後の頁 1215-1254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深田淳太郎	4. 巻 第15巻
2. 論文標題 An anthropological memorandum about cashless payment : Transition to cashless payment as a double movement	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 くにたち人類学研究	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深田淳太郎	4. 巻 2月号
2. 論文標題 貝殻貨幣経済における老人のマネープラン：投資と退職の関係をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 112-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高槻泰郎	4. 巻 57 (1)
2. 論文標題 加島屋久右衛門の創業と成長 業態変化に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経営史学	6. 最初と最後の頁 53-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎮目雅人	4. 巻 46
2. 論文標題 金融政策と国債管理 近代日本の経験から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 金融経済研究	6. 最初と最後の頁 52-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎮目雅人	4. 巻 67 (10)
2. 論文標題 近代貨幣制度の成立を巡って：日本の事例を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法学セミナー	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎮目雅人	4. 巻 44
2. 論文標題 歴史からみた現代貨幣理論の適用可能性：日本の事例を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 金融経済研究	6. 最初と最後の頁 115-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chikako Nakayama	4. 巻 10(4)
2. 論文標題 Longing for Haute Finance in the 21st Century?: A Neo-Polanyian Approach to the Theory of Money in the Digital Age	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Accounting and Finance Research	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5430/afr.v10n4p10	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高槻 泰郎、上東 貴志	4. 巻 25
2. 論文標題 投機かりリスクヘッジか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済史研究	6. 最初と最後の頁 31~57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24712/keizaiishikenkyu.25.0_31	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Kobayashi	4. 巻 63
2. 論文標題 Tecendo redes imperiais: uma dimensao asiatica do comercio britanico de escravos no Atlantico no seculo XVIII	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Afro-Asia	6. 最初と最後の頁 11-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.9771/aa.v0i63.38307	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masato Shizume	4. 巻 47(2)
2. 論文標題 Review: Financial Stabilization in Meiji Japan: The Impact of the Matsukata Reform by Steven J. Ericson	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Japanese Studies	6. 最初と最後の頁 552-556
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/jjs.2021.0074	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 近世大坂における米切手担保金融市場
3. 学会等名 社会経済史学会第92回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高槻泰郎 高橋英徳
2. 発表標題 堂島米市場の価格変動分析：指数先物市場とスポット市場
3. 学会等名 関西学院大学産業組織論ワークショップ
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 Commodity Chains of Cotton Textiles During the Eighteenth and Nineteenth Centuries: India, Western Europe, and West Africa
3. 学会等名 Political Economy Tokyo Seminar (PoETS) (国際学会)
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 Economic Development of West Africa from the Precolonial to Colonial Periods: A Note for Comparative Studies of Tropical Development
3. 学会等名 Debating Economic Development in Tropical Asia: Historical Pathways, Environmental Constraints and Population Growth (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小林 延人
2. 発表標題 幕末維新期の日本における紙幣
3. 学会等名 日本金融学会春季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 深田 淳太郎
2. 発表標題 貝貨の死蔵と生の負債—原初の負債論から考える
3. 学会等名 日本文化人類学会第56回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林 和夫
2. 発表標題 植民地以前の西アフリカにおける布貨幣
3. 学会等名 日本金融学会2022年度春季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masato Shizume
2. 発表標題 Money doctors in Japan who created the modern monetary and financial systems
3. 学会等名 19th World Economic History Congress ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masato Shizume
2. 発表標題 Money As A Value System: An Interpretation of Currency Circuits
3. 学会等名 19th World Economic History Congress ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masato Shizume
2. 発表標題 Paper currencies in Japan during the pre-modern period: An implication to the introduction of the modern banking system
3. 学会等名 19th World Economic History Congress ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 The British Atlantic Slave Trade and Indian Cotton Textiles: An Umbrella Model
3. 学会等名 19th World Economic History Congress ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 The World of Weavers in The Gambia in the 1970s
3. 学会等名 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 近世日本の商家文書を活用するために
3. 学会等名 企業家研究フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Chikako Nakayama
2. 発表標題 Money as a means of payment in international and communal context of our age
3. 学会等名 5th International Karl Polanyi Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林延人
2. 発表標題 明治初期における廣岡家の危機対応 戊辰戦争・幣制改革・藩債処分・他人資本
3. 学会等名 日本金融学会秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 近世日本の気候変動研究序説 気候・市場・幕藩体制
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所共同研究拠点「環境問題の社会史的研究」報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 大坂商人が支えた大名財政 融資・藩札発行・産業育成
3. 学会等名 神戸大学経済経営研究所ウェビナー 藩札から銀行へ～渋沢栄一と明治の金融革命～
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林延人
2. 発表標題 藩札の流通と回収 高知藩札・上田藩札の事
3. 学会等名 神戸大学経済経営研究所ウェビナー 藩札から銀行へ～渋沢栄一と明治の金融革命～（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鎮目雅人
2. 発表標題 渋沢栄一の紙幣事始め 播磨国一橋領での経験と国立銀行
3. 学会等名 神戸大学経済経営研究所ウェビナー 藩札から銀行へ～渋沢栄一と明治の金融革命～（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 加島屋久右衛門の創業と成長 業態変化に着目して
3. 学会等名 第57回経営史学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 近世日本金融市場の構造 Relationship Finance とArm's Length Finance
3. 学会等名 日本金融学会2021年度秋季全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasuo Takatsuki
2. 発表標題 Microstructure of the First Organized Futures Market: The Dojima Security Exchange from 1730 to 1869
3. 学会等名 Research Seminar, Economic History, Growth & Development (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasuo Takatsuki
2. 発表標題 Microstructure of the First Organized Futures Market: The Dojima Security Exchange from 1730 to 1869
3. 学会等名 Early Modern Financial History online seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 小西新右衛門の大名貸と藩債処分
3. 学会等名 第90回社会経済史学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 小西新右衛門の大名貸と藩債処分
3. 学会等名 日本金融学会歴史部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 An Umbrella System: South Asia in the Early Modern Atlantic
3. 学会等名 South Asia through a Global Lens (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 The British Atlantic Slave Trade and Indian Cotton Textiles: An Umbrella Model
3. 学会等名 VIII EHC; Imperios Coloniais da Era Moderna: rupturas e permanencias (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 中山智香子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 106
3. 書名 大人のためのお金学	

1. 著者名 高槻泰郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 0
3. 書名 貨幣改鑄と経済政策の展開（村和明・吉村雅美編『日本近世史を見通す 2 伝統と改革の時代』）	

1. 著者名 高槻泰郎	4. 発行年 2024年
2. 出版社 勉誠社	5. 総ページ数 0
3. 書名 貨幣・金融 お金のやりとりに見る近世社会の特質（上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門 ようこそ研究の世界へ！』）	

1. 著者名 小林和夫	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 植民地時代までの西アフリカ経済ー比較研究のための覚書（脇村孝平編『近現代熱帯アジアの経済発展：人口・環境・資源』）	

1. 著者名 小林延人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 0
3. 書名 得能良介と印刷・金融行政の近代（鈴木淳編『経済の維新と殖産興業 1859-1890』）	

1. 著者名 小林延人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 慶応義塾大学出版会	5. 総ページ数 0
3. 書名 廣岡家の明治維新（高槻泰郎編『豪商の金融史』）	

1. 著者名 Giorgio Riello and Kazuo Kobayashi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 UNESCO and China National Silk Museum	5. 総ページ数 0
3. 書名 The Global Success of Cotton (Zhao Feng and Marie-Louise Nosch, eds., Textiles and Clothing: Thematic Collection of the Cultural Interactions along the Silk Roads)	

1. 著者名 小林 和夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 0
3. 書名 商品連鎖のなかの西アフリカーインド綿布と大西洋奴隷貿易（小川幸司・島田竜登編『岩波講座世界歴史 11 構造化される世界』）	



1. 著者名 Kazuo Kobayashi	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 142
3. 書名 West Africa and France in the Rebuilding of Pondicherry after 1816: The Case of Textile Industry (Redhika Seshan and Ryuto Shimada, eds., Connecting the Indian Ocean World: Across Sea and Land)	

1. 著者名 高槻泰郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 豪商の金融史 廣岡家文書から解き明かす金融イノベーション	

1. 著者名 小林純・中山智香子(訳) ゲオルク・フリードリヒ・クナップ(著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本経済新聞出版	5. 総ページ数 430
3. 書名 貨幣の国家理論	

1. 著者名 Masato Shizume	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 111
3. 書名 The Japanese Economy During the Great Depression: The Emergence of Macroeconomic Policy in A Small and Open Economy	

1. 著者名 小林和夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 326
3. 書名 奴隷貿易をこえてー西アフリカ・インド綿布・世界経済	

1. 著者名 小林延人	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 0
3. 書名 明治前期における広岡家の経営改革と広岡浅子（吉良芳恵編『成瀬仁蔵と日本女子大学校の時代』）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中山 智香子 (Nakayama Cikako)  (10274680)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  (12603)	
研究分担者	深田 淳太郎 (Fukada Juntaro)  (70643104)	三重大学・人文学部・准教授  (14101)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小林 和夫 (Kobayashi Kazuo)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小林 延人  (Kobayashi Noburu)		
研究協力者	柴本 昌彦  (Shibamoto Masahiko)		
研究協力者	清水 崇  (Shimizu Takashi)		
研究協力者	高槻 泰郎  (Takatsuki yasuo)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Workshop on Money as a Value System	開催年 2024年～2024年
-----------------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
コロンビア	Los Andes University			
フランス	Bank of France	EHESS	Universite Paris Nanterre	
スウェーデン	Uppsala University			